芦屋市企画部市民参画・協働推進室室 室長 川口 弥良 様

> (あしや市民活動センター指定管理者) 特定非営利活動法人あしや NPO センター 事務局長 橋野 浩美

芦屋川お掃除隊×石ころアート報告書

1 日 時:令和4年6月5日(日)9:00~16:30

2 会場: 芦屋川およびリードあしや内

3 担 当:橋野

4 参加者:66人

実行委員会13人(芦屋大学ボランティア部 aqua、県立芦屋高等学校)協力団体14人(芦屋映像俱楽部あしゾウ、神戸新聞社、芦屋女子会)清掃ボランティア15人(芦屋学園高校、豊泉家職員、他市民)石ころ参加者24人(8家族)

- 5 講師:森口郁子さん 金子美保さん
- 6 事業詳細
 - (1) 目 的: 芦屋川の環境保全のための清掃と拾った石をリユースして楽しむこと 学生が実行委員会を立ち上げひとつの事業を作り出すこと。
 - (2) 内容:学生による実行委員会を発足 それぞれのチームで運営する。
 - ・清掃と子どもの居場所を運営するチーム
 - ・撮影チーム(神吉さん+芦屋映像俱楽部あしゾウの協力)
 - ・新聞チーム(神戸新聞社協力)

午前:ボランティアと協働して芦屋川の清掃活動を実施 午後:芦屋川の石に絵や文字を書いてアートを楽しむ

7 振り返り:

- ・程よい日和で熱中症の心配もなく作業が進んだこと、作業後には、学生と企業 と団体と市民の方々との交流ができたようで和やかに午前中は終了した。
- ・昼食作りは芦屋女子会が担い(カレー+コールスローサラダ)、実行委員の面々 は笑顔で黙食した。
- ・石ころアートは、親子参加で子どもは3歳から小学3年生までであった。学生 実行委員がサポートを担い、あちこちから歓声があがっていた。
- 午前の清掃、午後の石ころアート、どちらからも「また、参加したい」と声が 上がっていた。
- ・新聞チームは、石ころアートが終わるまでに新聞を完成させ、参加者に届けた。
- ・映像チームは、編集作業を今月中にし、YouTube 配信予定である。

















ランティア都名 Gua、果(ソウ、神戸新聞社、芦屋女)以上のボランティア合計約

ベント合わせて市民や子どもら約50人が参加した。お禅綵除は悪観をはいた参加 しや」を拠点に関かれた。川の環境侵全と右のリユースを兼ねた取り組みで、両イ 棒除像×石ころアート」が6月5日、芦屋市立あしや市民活動センター「ザードあ

芦屋川の川底にたまった石を拾い集め、その石を使って作品をつくる「芦屋川お

芦屋川お掃除隊30人、

40袋分収集

京が川に入って作業をし、石ころアートは緑の異などで右に繰や文字を描いた。

は丁三般に、砂利は、ケッ めて合量で川から遠び、草

作業も重労働で、皆で協力、どだったが、参加者の努力

石の表面キャンバスに



お掃除隊」は、芦屋大学ボーア部、芦屋院像俱楽部あし、主観、実行委員会と高校生 午前に開かれた「宮屋川」立宮屋高等学校ボランティー子会でつくる実行委員会の 30人が参加した 足質ほどの水位で、実際に 川に入って作業を行った。 ドロドロになる程作業に動 時間がて棒除した。川は しりに取り組み、荒れ果て 中していたが、日差しが出 服が満れて汚れたり、手が ていた中州など言屋川を1 第平構 周辺で右拾いや草む てなかったので比較的過ご 参加者たちは、首属川の

やすい気候だった。 石は40枚の土職機に集

にそれぞれ分けて入れた。れた、どれも最が多く全て、ど綺麗になった。 川からリードあしるに選ぶ一取り除くにはキリがないほ して連んでいる様子が見らによって一日見て分かるほ

い!」「三角になって さんを招き、「宮屋川お捧 4人が参加した。順節とし 子どもと保護者合わせて2 にはるオー小きる年生の ら自分の好きな石を選び取 いていた て森口を子さん、食子美保 クレヨン、チョークを使っ たくさんの絵具や色ペン、 ザインを考え、絵の典で右 る!」と、多くの石の中か 絵の真や色ペン、クレヨン 除除」で集めた石ころに、 全体を白や鳥に塗ったり、 った。石の形を利用したデ 等を使って、絵や文字を書 午後の「石ころアート」 「この石、新幹線みた

われたが、抜いた草は種っ いく作業だった。初めは石 ころよりも楽な作業かと思 る難草を扱っこから扱いて

重労働…でも爽快

服の汚れ気にせず、草抜きも

った。しかし木く長い模っ もあり、決して楽ではなか め重たく、中々抜けない草 こに土や水を含んでいるた てカラフルにしたりと、個



に10個石を入れただけで

草花をは、川に生えてい

(宮腰さくら)

っても終わりが見えず、彼 作業だった。いくら右を拾 なるべく大きめの石を拾う

っていた水の流れが流れ出 や、石を取ったことで止ま

した時の嬉しさは大きかっ

石ころ揺いは、川にある

石ころ括い・草抜きを行っ、巣だった。しかし大きく締

魔な石を取れた時の連成感

戸屋川お掃除隊として、

もかなり重くしんだい作

を感じた。 こを見ると、植物の生命力

りで、比較的作業がしやす で、重たいものを扱う重男 に頑張った粧となった。 は、戸屋川を綺麗にする名 い環境だった、殿の汚れ うことが出来た。天気は でワイワイ楽しく作業を行 に綺麗になればと、みんな 動だったが、声量川がさら

上た 性温れる作品をたくさん仕

石ころアートを作り上げる 字を書いて、数子で1つの もの手形をつけたり、子ど もが絵を描き、保護者が文 中には、大きな石に子ど

家族もあった。

と楽しそうに貼した。ま セージの入った石ころアー た、学生スタッフに向け の石ころアートをそれぞれ **意見していて、見ていて楽** トをプレゼントしていた。 さん ありがとう」とメッ い石にお練かきしたい!」 見なした。子ども連は、 しかった。」と実験で貼し たち、子ども達の個性が て「お見さんをい したい!」「もっといっぱ 「またこのイベントに参加 白さんは、「考えてい 最後に、1番お気に入り

(佐藤美優、宮履さくら)

ずっとしゃがんだまま